

株式会社 安川電機 2017年度 第2四半期決算説明会 質疑応答（サマリー）
（2017年10月24日（火）東京開催）

【回答者】

代表取締役社長 小笠原 浩

代表取締役 専務執行役員 村上 周二

Q：モーションコントロールセグメントのACサーボモータ・コントローラ事業の中国における状況は？

A：

- ・上期はスマートフォン関連の旺盛な需要を背景に好調に推移した。
- ・中国は国慶節に伴い稼働日が減少したことなどで、足元の受注は一時的に減速している。
- ・中国では、生活の様々な場面でスマートフォン決済等が可能になっており、人々の生活に欠かせないものとなっている。このため、個人認証やセキュリティ面等、さらなる高機能化に向けた積極的な投資は今後も継続すると考えている。
- ・スマートフォンの新モデルへの投資に加え、その生産の自動化に対する投資が継続していく。

Q：ロボット事業の利益率について、今後の見通しは？

A：

- ・ロボット事業では、当初目標としていた利益率10%を今上期に達成した。
- ・通期でも大きな市場変化が無い限りは、この水準を達成できる見通しだ。
- ・今後は、コストダウンした新製品で量増を狙い、更なる利益率向上を目指していく。

Q：太陽光パワーコンディショナ事業が低迷している。今後の対策は？

A：

- ・当事業が関連する市場の環境低迷などにより、売上の不振につながった。
- ・現在開発中の新製品で売上げ拡大を目指していく。
- ・当事業に関連する開発リソースを米国に集約するなど、構造改革を進めている。
- ・パワーコンディショナに必要なパワー変換技術は、新たな用途への展開も視野に入れ、継続して取り組んでいく。

Q：EV（電気自動車）普及の流れが事業環境に与えるインパクトは？

A：

- ・EV用モータとインバータについては、EVの基幹部分であるため、EVメーカーが主導で生産していくことになるが、当社は、機種種の拡大などでEVメーカーが手が付かない部分について、積極的に取り組む。

・EVの生産設備は、ガソリン車に比べると、エンジン・排気系の部品が無く、シンプルになるが、EV増産のための新規設備投資が行われるため、ロボット事業を中心にプラス影響が出ている。

Q： 利益水準が向上しており、フリーキャッシュフローが増加している。今後のキャッシュの使い道は？

A:

- ・今後は受注増に応じた能力増強投資を行う計画だ。
- ・アライアンスやM&Aも視野に入れ、コア技術（モータとその制御）の分野を中心に、将来を見据えた投資を行っていく。
- ・当社製品を活用した最先端の自社工場の自動化投資も進める。
- ・現中計期間では、このような成長投資に売上高の6%程度を使う計画だ。

以上